連載

企業を活かす人材活用
人材が輝く企業の現場

第3回

パチンコにイノベーションを起こす 求めるのはその苦労をともに出来る人

［聞き手］株式会社パック・エックス キャリアカンパニー

埼玉・東京で《ゴープラ》5店舗を経営する株式会社USEI。同社最大のこだわりは、安価だが良質なサービスの提供であり、営業形態でも1円パチンコ・5円スロットにこだわる。その想いを広げるため、人材（同社では人才）の獲得に力を入れる同社。最も重視するのは、同社のクレド・営業姿勢への共感だ。

トップ自らが「いまは創業期」と宣言する株式会社USEIでは、2008年より営業形態を低貸玉営業に特化。その背景には「社会的課題を解決するビジネスをする、ひいてはパチンコで不幸な人をつくらない」「安価なのに楽しいサービスを提供する」という想いへの徹底的なこだわりが存在します。

「パチンコファンを増やしたい。だからもっと多くの方にパチンコを好きになってほしい。そのために何ができるのか。一緒に考え、一緒に苦労してくれる人を求めている」と朝川康誠代表取締役社長。

そのパチンコへのこだわり、人材採用に対する考え方を、同社を担当するパック・エックス キャリアカンパニー執行役員・窪田淳二が聞きました。

※

パチンコファンを増やす本気でそう考えています

窪田　いつもお取り引きいただきありがとうございます。ところで、御社は他社に先駆けて低貸玉専門店へと舵を切りましたが、そこにはどういう考えがあったのでしょうか。

朝川　「一番にあるのは、パチンコファンを増やしたいという想いです。ですが、1万円が30分で無くなってしまうようなパチンコで、どれだけの人が遊べるのでしょうか。もちろん4円で、新台がたくさん導入されて、豪華な建物のパチンコがあっていい。ただ、それ以外の選択肢もないと、業界は先細ってしまうと思います。

それでは、ゴープラはどういう店かと言えば、安価なのに楽しい。手軽に良質を楽しめる。こうした価値観をお客様と共有できるお店です。お店の立ち位置を発信することで、お客様に遊び方の選択肢を広げてもらう。そのためには様々な設備、施策などから取捨選択が必要です。お客様に「何が欲しい？」と聞けば「全部」と答えるでしょう。でもその中から本当に必要だと思うものを選択して提供するのがゴープラの考え方。この取捨選択をきっちりしないとゴープラのビジネスは成り立ちません。〝やらない〟ことに対する覚悟は業界でも有数だと自負しています」

——営業姿勢に対する強い自負が窺えますが、中途採用の面接で考え方のギャップを感じることはありませんか。

「会社のホームページやパンフレットで私たちの考え方を打ち出すようになり、そうしたギャップは無くなりました。今は面接に来られる方が逆に当社のことを勉強していて、こちらが面接されている気持ちになります。当社のクレド（私たちはお客様に楽しい時間を提供します。）や営業姿勢を理解してくれていて、『本当にそんなことできるんですか』と確認しにくる。だから、『本気でパチンコが好きで、ファンの裾野を広げたいと思っています。苦しいやり方だけど、一緒に頑張ってくれませんか。この取組みを一緒に大きくしてくれませんか』と伝えます。確かに業界の良い時代が過去にあって、『あの栄光をもう一度』という思いもあるのでしょうけど、環境が変わったと理解する必要があると思います。今の当たり前って何なんだろう。そんなことをいつも話しています」

——そんな朝川社長がパチンコと関わるまでの経緯は。

「父親がパチンコ店を経営していて、よく聞く話だと思いますが、最初はパチンコを毛嫌いしていました。パチンコもやったことはなかったし、店を継ぐとは思っていませんでした。大学卒業後は金融機関に勤めていたのですが、色々な経緯があって、結局は店を継いで欲しいという話になりました。そこであるチェーン店の現場と本部で修行をさせてもらったのですが、その時パチンコの概念が変わりました。接客がきちんとしていて、教育もしっかりやっている。すごく楽しいことをお客様に提供していると感じました。稼働も良かったですね。それに、色々な立場、境遇の人たちが働いている。こうした多くの方と触れ合った経験が大きかったですね。色々な方が働ける場所を作らなければだめだと思うようになりました。この時の経験がいまでも私の背骨になっています」

大切なのは考え方への共感 そこに役割意識が芽生える

——そして2002年に入社、2008年には社長に就任されました。事業規模を拡大する中で人材も必要になったのでしょうね。

「やはり一番大変なのは人です。一人では会社を動かせませんから。そこで大切になってくるのが、同じ旗印のもとに集っているかどうかです。逆に考え方が同じなら、新卒だろうが中途だろうが関係ないと思っています。さらに言えば、当社は採用にあたり『年齢』『社歴』『国籍』『性別』『学歴』を問わない完全実力主義という『5ない主義』の立場をとっています

中途採用はパック・エックスさんから紹介いただいた人材も含め、活躍している人が多いですね。活躍している人に共通しているのは、当社のクレド、ビジネスモデルに共感し、理解しようとして入社している点。だから『自分が何をすべきか』という役割意識が強い。あとはポテンシャルを発揮できれば活躍につながると思います」

——クレドで結びつくことで、さまざまな企業の出身者、なかには異業種からの転入者もいると窺っていますが、こうした組織が上手く回っていくのでしょうね。ところで、求める人物像はありますか。

「一緒に知恵と汗を出してくれる人です。完成された組織に入りたい人には、当社は向かないでしょうね。足りないところを見つけたら、自分で足していこうという気概のある人。また、私も間違うことがありますから、その時はしっかりと議論してくれる人。私自身、たまには遠慮して言わないでおこう…という時がありますが、まず後悔します。言うべき時ははっきり言った方が、後々の企業価値向上に繋がると思います」

——最後に、人材紹介を利用して良かった点を教えていただけますか。

「知名度がまだまだの会社です。ですから当社を知ってもらう上で、応募者との間のインターフェイスを担っていただけていると思っています。また、パック・エックスさんには当社の考え方を応募者の方にしっかり伝えていただけていると思います。志望動機の時点でミスマッチという方はいなくなりましたね」

左より窪田淳二執行役員、朝川康誠社長、USEI・嶋内仁取締役管理本部長、総務人事部・佐藤晃範主任。対談は4人で賑やかに行われた。

株式会社USEI 代表取締役社長
朝川康誠（あさかわやすなり）
新卒で銀行に就職し、本店勤務するも保守的な体質に失望し退職。オーストラリアで生活していたが、父親に請われ帰国。パチンコホール大手某社に就職しパチンコビジネスの基礎を学ぶ。その後、父親の創業した株式会社USEIに転じ、2008年より現職。2012年に立教大学大学院でMBA取得。

株式会社パック・エックス
キャリアカンパニー執行役員
窪田淳二
くぼた　じゅんじ
遊技機メーカーの営業職を経て、2005年に㈱パック・エックスに中途入社。以来、9年間転職支援、採用コンサルティングに携わる。2013年に執行役員に就任。現在は全国各地のパチンコホール企業に対し、採用支援を行う。